

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	エスペースバイス工業株式会社埼玉	階数	地上3F
建設地	埼玉県北葛飾郡松伏町	構造	S造
用途地域	用途地域未指定	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,400時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2019年7月22日
敷地面積	15,075 m ²	作成者	前田建設工業(株)
建築面積	1,216 m ²	確認日	2019年7月22日
延床面積	3,648 m ²	確認者	前田建設工業(株)



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.4

S: A: B+: B-: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 食品工場としての食品衛生の観点からの要求事項と室内環境・サービス性能のバランスをとっている。外部の植栽・緑地においては敷地内に既存工場が立ち並ぶ中最大限に確保する計画としている。 また、給気と排気の設備のゾーニングを明快にし、空気室環境の管理に重点を置いた計画としている。		その他 外壁だけではなく内部の間仕切りの大部分に断熱パネルを採用し断熱性を持たせることで空調負荷の軽減を図っている。
Q1 室内環境 執務エリア該当なしの為 評価対象外	Q2 サービス性能 維持管理の容易な仕上げ材の採用及び平面プランや天井裏のメンテナンススペースを設けるなどの調整を行い設備機器の更新などの将来の十分なフレキシビリティを確保し他計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) 各所緑化を行う。敷地入り口正面には園庭があり、中木などが植栽され周辺景観への負荷が低減されている。
LR1 エネルギー LED照明を全般に取り入れ、BEI値を向上している。変電設備にマルチメーターを設置し電力量のモニタリングを行っている。	LR2 資源・マテリアル 用途上、気密対策として多量に使用するシーリング材に特定化学物質を含まない材料を使用している。 工場用途の特性上の間仕切り配置などの変更なども考慮し、内部仕上は乾式工法の断熱パネルなどで構成し、躯体との分別解体が非常に容易にできる計画としている。	LR3 敷地外環境 敷地周辺の景観の特徴に配慮し、外壁サインの照明などを行わない計画としている。

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
		Q 建築物の環境品質				
Q1 室内環境						
1 音環境						
1.1 室内騒音レベル		-	-	-	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音		-	-	-	-	
2 温熱環境						
2.1 室温制御		-	-	-	-	
1 室温		-	-	-	-	
2 外皮性能		-	-	-	-	
3 ソーン別制御性		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		-	-	-	-	
2.3 空調方式		-	-	-	-	
3 光・視環境						
3.1 昼光利用		-	-	-	-	
1 昼光率		-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	
1 昼光制御		-	-	-	-	
3.3 照度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		-	-	-	-	
4 空気質環境						
4.1 発生源対策		-	-	-	-	
1 化学汚染物質		-	-	-	-	
4.2 換気		-	-	-	-	
1 換気量		-	-	-	-	
2 自然換気性能		-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能			0.43			
1 機能性						
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	
1 広さ・収納性		-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	
1 広さ感・景観		-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		-	-	-	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.50			
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		4.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	外部露出のダクト等にはガルバニウム鋼板でラッキングを実施 給水及び給湯配管にステンレス管を使用しメカニカル継手としてい	4.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20			
2.4 信頼性		2.4	0.20			
1 空調・換気設備		1.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20			
3 電気設備		3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5 通信・情報設備		2.0	0.20			

3 対応性・更新性			4.6	0.50	-	-	4.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	5.5m以上の階高を確保している。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	断熱パネルを間仕切り壁として採用しレイアウト変更が容易である	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		積載荷重14700N/m ² を計画	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			4.4	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	天井裏のメンテナンススペース及び十分なPS、DSにより更新が容易	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	天井裏のメンテナンススペース及び十分なPS、DSにより更新が容易	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	天井裏のメンテナンススペース及び十分なEPSにより更新が容易	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	天井裏のメンテナンススペース及び十分なEPSにより更新が容易	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	天井裏のメンテナンススペース及び十分なPS、DSにより更新が容易	5.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	RF設備機器置場にバックアップスペースを確保している。	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.37	5.0	0.63	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		タイル、ボード、ビニル床タイル	5.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		シーリング材に特定化学物質を含まない計画	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		CO2計算による	4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止		燃焼機器の不採用	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート

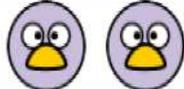
使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	エスピースペース工業株式会社埼玉工場 C棟	BEE	1.4	BEEランク
------	-----------------------	-----	-----	--------

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO ₂ の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
4.2	+	2.0	=	6.2	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上		すばらしい 8.0以上	
					

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO₂の削減		スコア平均	4.2
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.2
< 配慮した内容を記述 > 燃焼器具を不採用とする計画としている。 CO ₂ 評価値/参照値の割合 71%			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.0
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	1.0
< 配慮した内容を記述 > 既存工場が敷地内に多数存在する中、可能な限りの緑地を設置を行っている。 配棟計画の際に風の通り道を阻害しない計画としている。			

: 入力欄